医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院

医療法人財団友朋会
Yuuhou Medical Foundation

風だより

友朋会理念『患者さんのために』

2025.01
vol.111
新春号



病院入口　門松

contents

2　理事長年頭挨拶
3　各部署長年頭挨拶及び抱負
4　千寿荘、孝心の里合同秋まつり
5　クリニック展示会
6　朋寿苑だより／連携室通信
7　女性活躍推進事業（院内研修会）
8　友朋会指針、外来予定表

謹賀新年

年頭のご挨拶

理事長　中川　龍治

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年11月に中央1病棟の施設基準である地域移行機能強化病棟の届け出を取り下げました。12月1日から、それに伴う12床の病床削減を行い、嬉野温泉病院は精神科532床と内科155床の計687床となりました。6年間で計72床の病床削減を行ったことになります。人材不足、入院患者数の減少に対応してきたものです。当分は、687床にて、コロナ禍に受けた様々な影響への立て直しを行う必要があります。

本年は創立60周年という節目の年に当たります。創立時の指針の一つに「精神科病院らしくない精神科病院を目指す」というものがありました。今は、誤解を招きかねないということで、治療空間、アメニティー、芸術療法という言葉で表現していますが、この真意は「地域の方に一般科と同じように、精神科病院である嬉野温泉病院に受診してもらえるようになること」です。このことにつきまして、60年間に何がどうできてきたのかを振り返る1年にするとともに、あらためて、地域の皆様に友朋会で医療、介護、福祉のサービスを受けたいと思ってもらえるためには何をすればよいかを職員の皆さんとともに考える1年にしたいと思います。



今年の指針です。

2025年（令和7年）友朋会の指針『患者さんのために』

理念である『患者さんのために』をその年の指針として定めて3年目となります。この1年、職員の皆さんにはこの言葉の意味を自分なりに咀嚼し、自分の中に落とし込んでいただきたいと思います。お一人お一人がそれぞれの答えをもって、患者さんに寄り添っていただくことをお願いいたします。我々は、時々、患者さんの対応にどうしたらよいか「困る」ときがあります。しかし、我々以上に「困っている」のは患者さんです。「困っている」患者さんのために寄り添いましょう。

昨年、6月から8月にかけて、当院はいまだかつてない入院患者数の減少がありました。最も大きな要因はいまだに新型コロナによるものです。世の中的にはほぼ終わった感染症的な捉え方ですが、感染力の強い新型コロナは我々にとっては変わらぬ脅威です。しかし、それでも、今年は頭書にも書きましたように友朋会にとりまして、経営的に立て直しの1年にしなくてはなりません。60年という節目に、前を向いてしっかりと進んでいくために、また、地域の皆様のためにも、やるべきことはやるという不退転の覚悟で幹部一同臨みますので、友朋会に関連する皆さん、職員の皆さんのご理解とご協力を賜りますことを心よりお願い申し上げる次第です。

この一年、我々友朋会職員一同は、誠意をもって真摯に、研ぎ澄まされた一人一人がひとつとなり、どんな小さなことでもひとつずつ根気強く積み重ね、前を向いて、しっかりと精進していきます。本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

best wishes for a happy new year!



各部署長年頭挨拶及び抱負

新しい年に沢山の幸せが訪れますように
本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

嬉野温泉病院　精神科

副院長　冨松　眞之

謹賀新年。患者さんの心を癒せる場として、病院がどうあるべきか。そのためには自ら研鑽し、専門性を高め、新たな取り組みを導入する意欲を持ち続けたいと思います。

嬉野温泉病院　内科

副院長　竹下　吉明

令和7年、友朋会は創立60周年を迎えます。さらに良い医療と福祉を提供できるように、明るい一年になるように、より丁寧に取り組んでいきましょう。今年もよろしくお願いします。



介護老人保健施設　朋寿苑

施設長　林原　歳久

当院創設60周年の節目となる本年を、職員一同さらに盛り上げていけるよう、一日一日を真摯に積み上げ継続できるよう努めていきたいと思います。

ものわすれメンタルクリニック

院長　芹川　佳代子

今年も、患者さんお一人お一人ときちんと向き合い、丁寧でしっかりとした医療が提供出来る様に心がけます。

また、自分や自分の周りの人たちが一年間前向きな姿勢で過ごせる様に心がけます。

友朋会

法人事務局長　末永　憲博

友朋会は今年還暦を迎えますが、年々医療業界が厳しくなってきており、それに輪をかけスタッフ不足で病院運営自体もなかなか厳しい現状があります。厳しい中にも何かを見出し、友朋会を発展させなければなりません。

今はじっと我慢の時かもしれませんが、職員全員で努力をして友朋会の歴史をつくっていきましょう。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

看護部

部長　松尾　智子

昨年もいろいろな出来事があり、目まぐるしい1年だったように感じます。

しかし、そのような中でも少しずつみんなが集える場所を作ることができ本来の友朋会行事が再始動し始めた年ではなかったかと振り返ります。

今年は、当院60周年の記念すべき年でもあります。

患者の皆さま、職員の皆さまにとって心に残る一年となりますよう力をあわせ頑張っていきましょう。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

best wishes for a happy new year!

グループホーム 千寿荘

TEL 0954-43-0157

認知症高齢者グループホーム千寿荘では、
家庭的な雰囲気の中で少人数で共同生活を送る
ことにより、認知症の進行を緩やかにさせ、
いきいきと日常生活を過ごせるよう支援いたします。

小規模多機能ホーム 孝心の里

TEL 0954-43-7550・FAX 0954-43-7551

小規模多機能ホーム孝心の里では、
住み慣れた家、地域で安心して生活ができるように、
必要に応じて「通所」「宿泊」「訪問」のサービスを
組み合わせて利用できる在宅サービスです。

グループホーム千寿荘と孝心の里 合同の秋祭りを開催しました！



小規模多機能ホーム孝心の里のグラウンドゴルフ場の有効活用の一環として、今回初めて孝心の里とグループホーム千寿荘合同の秋まつりを実施しました。

利用者様の高齢化に伴い、移送などの課題がある中で競技内容等の検討を繰り返して参りました。天気予報では雨でしたが、当日は秋の晴天に恵まれ選手代表の宣誓も大きな声で響き渡りました。利用者の皆様も競技に積極的に参加され、笑顔がたくさん伺えました。ご家族様、来賓の皆様も一緒に競技に参加され、談笑しながら「気持ちよく汗をかくことができました。」と楽しまれていました。

イベントでは、職員選抜面浮立、孝心の里・千寿荘職員のダンスを披露しました。ダンスの時は、散歩していた保育園児も飛び入りで参加し、利用者様も「かわいかねぇ…」と微笑まれていました。昼食のお弁当は、昔を想起して頂くメニューを職員総出で手作りして提供させて頂きました。松尾看護部長が前日から不眠不休で紅白の大福を作り、お弁当に花を咲かせることができました。皆さんから「懐かしかね。美味かったよ。」と絶賛でした。

お陰様でたくさんの利用者様とご家族様に参加いただき盛況のうちに終えることができました。今後も地域との交流の場として継続できるようスタッフ一同努めていきたいと思います。



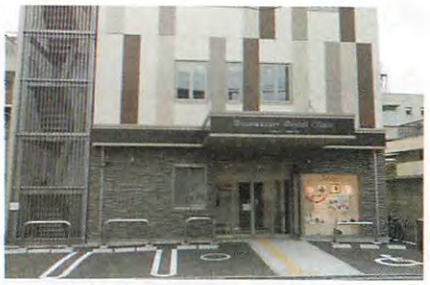


Clinic News

ものわすれメンタルクリニック

〒815-0082 福岡市南区大楠 2-15-28
TEL 092-534-5151・FAX 092-534-6838

福岡県福岡市にある、ものわすれメンタルクリニックです。



令和6年作品展示会

アートリハ・奏に通所して頂いているご利用者様方にとって、1年間の集大成である作品展示会を今年も11月24日に開催しました。

また多くのご利用者様とご家族様にも来場して頂き、終始賑わいを見せておりました。

今回が初めての来場となる新規ご利用者様とそのご家族様の参加も多く、「こんなにいいものが作れるんですね」「こんな事が出来るんですね」「素晴らしい字を孫にも見せたい」「居心地が良い空間ですね」などの言葉を頂き、利用者様について職員とご家族と多くコミュニケーションを持つことが出来ました。

同時に開催した陶芸体験会も近年1番の参加数であり、作陶の楽しさや難しさなどを体感して頂きました。職員にとっても日々の療法の成果を肌で感じられる機会となり、また芸術療法やご利用者様への介入に関して、気持ちを新たに前向きに取り組んでいこうと思わせていただける良い日となりました。







Hojuen News

介護老人保健施設

朋寿苑

TEL 0954-42-2900・FAX 0954-42-2907



医療法人財団 友朋会の介護老人保健施設 朋寿苑では、
家庭的な雰囲気と利用者さまの個性尊重を第一に、きめ細かな
ケアプランにそった介護と多彩な生活機能訓練によって、家庭復帰を目指しています。

Hojuen News

入所部門

ミニ運動会

ミニ運動会を開催しました。万国旗の飾り付けをして雰囲気を出し紅白に分かれて「風船送り」と「玉入れ」を行い、風船送りでは「隣にやらんば！」など利用者様同士声かけをされ、玉入れでは箱に玉が入ると「入ったー！」と喜ばれていました。笑顔も見られ楽しい時間となりました。



レクリエーション

10月10日にアロマオイルを使用したハンドマッサージを実施し、たくさんの利用者様にマッサージを行う事が出来ました。施術中には笑顔で気持ち良さそうにされていました。苑内もアロマの香りで満たされて、楽しく気持ちの良いレクリエーションになりました。



そば打ち体験

11月13日はそば打ち体験をしました。職人さんに来て頂いて、そば打ちの道具の説明やそば生地を切ったり、こねたり、伸ばしたりなどを体験しました。「私、昔そば打っていたよ」と思い出を話して頂き、お昼ご飯には利用者様が打ったそばが提供され「とてもおいしい」と好評でした。



Hojuen News

通所部門

バスハイク

11月25日に祐徳稲荷神社へ行きました。今年は暑い日が長く続いた事もあって、紅葉する前に葉っぱが散ってしまうという声がよく聞かれていましたが、当日は天候も良く、ここ数日の朝晩が冷え込んだおかげで、葉も色付き、絶好の紅葉見物日和となりました。車内から少し色づいた景色を見て「わーきれいかねー」と話し、時には歌を歌いながら盛り上がり、楽しむことができました。



地域連携室通信

今回は療養生活継続支援サービスのご案内です。



■療養生活継続支援サービスとは？

精神科外来に通院されている患者様の生活の中で抱える困りごとについて、精神保健福祉士が相談に応じ、生活上の問題、課題を整理した上で個別支援計画を作成します。支援内容に沿って定期的に精神保健福祉士が関わり安定した地域生活を目指します。

支援の期間は原則1年間となり、定期的に支援経過を振り返り評価（モニタリング）を行います。また相談内容に応じて他機関と連携を図りながら支援を行います。

■利用料金について

自立支援医療制度の適応となります。自立支援医療制度を利用した場合、1割負担でひと月350円となります。

病状や金銭面、就労の相談など日常生活でのお困りがありましたらご相談ください。また、ご不明な点がありましたら精神科地域連携室へお尋ねください。

精神保健福祉士　吉村 佳祐



女性活躍推進研修開催

課長会 女性活躍推進担当 南 修平

当会では、令和6年度末までの3年計画で女性活躍推進事業の計画に基づく取り組みを企画しております。初年度と前年度は外部講師をお招きして、女性活躍推進の世界の動向や日本における課題を明確にするための研修を開催しました。よって、今年度は当院の課題を明確にするために、役職者（部門の責任者）などを対象としたグループディスカッションを企画しました。

今回の内容は「管理職者に占める女性労働者の割合が28.3％と少ない」という現状に対する要因やその改善の考え方についてでした。6グループに分かれてグループディスカッションを行い、各グループから活発な意見の交換がありました。以下、各グループからの意見を紹介します。

参加者からは、「スタッフとのコミュニケーションを密に図り相談しやすい環境を作っておく必要性を改めて認識出来た」や「男女ともに活躍できる職場つくりが出来るよう、自分自身がロールモデルとなっていきたいと思った」など、役職者自身が、自分の課題として認識できる機会になりました。また、同時に「他部署の管理職者と話す機会を頂き大変良かったと思う」など、日頃の悩みを共有する機会になったことも有意義でありました。

参加者からの意見の中に、継続して開催を希望する声や明確にならなかった課題や改善策をもう少し具体的にしていく声も挙がりましたので、今後も継続して研修などの企画を検討していこうと考えます。



ファシリテーターによる議論の促進

各グループから出された女性管理職者が少ない要因

- 子育てや家事との両立の不安、管理職に魅力がないと感じている（役職者になると責任が増える、忙しくなるなどのマイナスな部分が見えている）。
- 管理職者の業務量の多さ、内容の複雑さなどから自信が持てない。
- プライベートを重視する風潮の高まりで、役職者を望む人の割合が減っているかもしれない。



各テーブルからの議論内容の発表

改善策

- 管理者自身のリフレッシュ、楽しみなどを作り、生き生きと仕事をしている姿を見せていく必要がある。
- 管理職者になった後にサポートがもらえると思えば安心するのではないか。
- 主任などの中間的な役職者の割合を増加させることで、負担を軽減しつつ、将来の管理職者候補が増える。
- 管理職者対象の研修開催や研修への参加を促進させる。

